

2012/6/22

## PRESS RELEASE

報道関係各位

株式会社テレビ神奈川  
北仲スクール・カレッジワンセグプロジェクト

### テレビ神奈川「カレッジワンセグプロジェクト」が防災情報実験を実施

～東海大学、慶應義塾大学・防災科研、横浜市民放送局などの  
協力を受け、災害時に有効な情報技術を検証～

株式会社テレビ神奈川は、2012年6月25日(月)と27日(水)、総務省「ホワイトスペース特区」<sup>(\*1)</sup> 実験免許に基づく、エリアワンセグ放送を用いた地域防災情報訓練実験を行います。

東日本大震災を経験した私たちは、「災害時の情報メディアの機能」について、必要な情報が適切な手段から発信され、それに冷静な判断を返すことの大切さを思い知りました。ワンセグ放送が、停電あるいは帰宅困難に陥った状況の中で有効に機能した点を踏まえ、具体的なエリアで「ワンセグ」の可能性を検証すべく企画されたのが、今回の防災情報訓練実験です。

#### 【実験概要】

6月25日の実験は、同日13:00、相模トラフを震源域とするマグニチュード7.9の地震(南関東地震)が発生したことを想定。情報が明らかになるスピードと意思決定に関するプライオリティの関係を重視し、地震発生30分後(身の安全の確保後)から2時間のシナリオを作成。それに基づいて、ワンセグ放送視聴可能域内で被災した人々が適切な情報行動を採ることができるかを検証します。被災者には「ビジネスマン」「観光・買い物客」「地元事業者等」の3パターン(プレイヤー11名)を設定。それぞれに10分毎にワンセグ放送から発せられた情報が的確に届くか、情報行動と意思決定がスムーズに行われるか、ツイッターを用いてプレイヤーから寄せられる情報が適切に放送内容に反映できるかを、ロールプレイ方式で進行・確認していきます。

6月27日の実験は、25日の実験から、主に帰宅困難者支援用のシチュエーションを切り出して実施します。ワンセグ放送コンテンツとインターネットの地図アプリケーションサービスを連動させ、ワンセグ放送からのIPマルチキャスト配信を介してエリア内の様々な災害支援情報(安否情報、ハザード情報、避難支援・施設情報、等)をユーザ間で交換・共有するといった、通信・放送融合型の災害情報ソーシャルサービスの実証実験を行います。

本実験は、横浜文化創造都市スクール（北仲スクール）と共同で2011年末から継続している「カレッジワンセグプロジェクト」<sup>(\*2)</sup>の一環として行われるものです。同スクールの事業終了（2012年3月末）後、推進してきた東海大学文学部広報メディア学科水島久光教授の研究室に引き継がれ、プロジェクト最後の実験として企画立案されました。また今回の実験では、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科スマートシステムデザインラボ・慶應義塾大学環境情報学部村井研究室・防災科学技術研究所社会防災システム研究領域と共同で、「IP over デジタル放送」技術<sup>(\*3)</sup>を被災時のコミュニケーション支援に活用する試みもなされます。

---

### 【実施体制】

実施主体：テレビ神奈川クロスメディア部

企画運営協力：東海大学文学部広報メディア学科水島久光研究室

放送実施協力：横浜市民放送局（責任者：梅香家聡）／株式会社トーキョーストーム（東京都千代田区、代表：大沢香織）

防災訓練シナリオアドバイザー：鈴木光（総務省消防庁防災図上訓練指導員）

IP over デジタル放送に関する実験・開発協力：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科スマートシステムデザインラボ（神奈川県横浜市、代表：神武直彦）／慶應義塾大学環境情報学部村井研究室（神奈川県藤沢市、代表：村井純）／防災科学技術研究所社会防災システム研究領域（茨城県つくば市、領域長：藤原広行）／株式会社 FEAC インターナショナル（東京都港区、代表取締役：今池正好）／アーティキュレイト株式会社（東京都文京区、代表取締役：久松慎一）

### 【実験局の所在地と放送エリア】

●アンテナ設置場所；横浜市民放送局（横浜市中区海岸通1-1日本海員掖済会ビル4階401号室）

尚、市民放送局を送信スタジオとし、中継局を海洋会館（海岸通1-1）屋上に設置。

→横浜市中区県庁周辺地域（象の鼻パーク～日本大通り～横浜公園）に向けて送信。

●周波数；UHF帯34ch（中心周波数：599.142857MHz）

●空中線電力／変調方式等

空中線電力；10mW／13セグメント

変調方式等；ISDB-T地上デジタル放送方式OFDM 5M70 X7W

12セグ(64QAM)＋1セグ(QPSK, 16QAM)の2階層変調

### ●総務省「ホワイトスペース特区」とは (\*1)

テレビ放送用電波の空き部分（ホワイトスペース）を有効活用し、新たなサービスやシステムの制度化、ビジネス展開を促進するための研究開発や実証実験を行う場。総務省の「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」が推進し、「ホワイトスペース推進会議（会長：土居範久 中央大学教授）」を中心に、2010年9月以降「ワンセグ活用型」「通信ネットワーク型」「新技術活用型」の三つの分野で新たな提案を段階的に募り、実験免許を交付してきた。2012年以降は、これらの実験を踏まえた本格的な制度づくりや研究開発に移行する予定。

### ●カレッジワンセグプロジェクトとは (\*2)

テレビ神奈川が、北仲スクール（横浜文化創造都市スクール；文部科学省助成による横浜関連7大学の共同サテライトスクール）の協力を受け「ホワイトスペース特区」における次世代放送の実証実験に応募したプロジェクト。放送局が自ら番組を作り届ける従来型のモデルから、発信主体を地域の学生や地域コミュニティ団体（自治体、商店街、生涯学習、イベント事業、ショップなど）に広げ、参加型の番組作りを志向することによって、地域の活性化および地域魅力の創造・創出を放送局が支援するモデルへの移行を構想し、検証を行う。2011年12月実験放送を開始。これまで関内外地区の事業・商店を紹介する企画、開港祭など横浜地域イベントの学生による中継、地元の人々を対象としたワンセグ体験の促進イベントなどを実施してきた。

### ●IP over デジタル放送 (IoDB) とは (\*3)

デジタル放送上でインターネット接続環境を提供する通信・放送融合技術。放送波でIPパケットを送信するIPデータキャスト機能に加え、片方向の放送システム上で仮想的な双方向通信環境を提供する機能を備えており、放送の広域・同報性とインターネットの双方向性といったそれぞれの利点を活かした通信・放送融合型の多様なサービスを実現できる。またIPマルチキャスト機能によって特定の地域・グループごとに異なるコンテンツを配信したり、IPフォワーディング機能によって放送受信チューナが搭載されていないネットワーク機器へコンテンツを提供したりすることも可能。なお、本技術はスマートフォン等にもソフトウェアレベルでの搭載が可能であり、専用の受信端末等を必要としない。また、現行の通信・放送システムとの相互運用性も高いため、早期の普及が期待できる。

本件に関する問合せは・・・

株式会社テレビ神奈川クロスメディア部「カレッジワンセグプロジェクト」

事務局担当 鈴木・細見

電話：045-651-1708 Mail：yosuke.hosomi@tvk-yokohama.com